

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24320020

研究課題名(和文) 民俗宗教が生成する景観の歴史遺産化に関する研究

研究課題名(英文) The study on the process of historical heritage of landscape formed by folk religion

研究代表者

鈴木 正崇 (suzuki, masataka)

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号：10126279

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、「民俗宗教」が歴史的に創り出してきた景観が、観光や地域振興を目的に再解釈される動きを「歴史遺産化」と概念化して現代の民俗社会の動態把握を試みた。調査地は三河・信州・遠江の「三信遠」を貫く秋葉街道と周辺地域で、祭祀・芸能・巡礼・イベントの調査を行い、道の持つ特性である「移動」や「移住」に注目し、有形・無形を問わず歴史遺産として生成されていく過程を明らかにした。日本各地では「遺産」概念の増殖が起こっており、ブランド化によって地域社会を活性化する動きが、政治・経済・文化を結びつけている。本研究では「遺産」の概念が、「歴史」と「記憶」と「民俗宗教」の相互作用を活性化する過程の理論化を試みた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is the analysis on the dynamics of folk society using the concept of "process of historical heritage", the movement of the reinterpretation of landscape formed by folk religion under the historical change. This process has been connected with the revitalization of tourism and local development. The research area is Akiba road in Nagano, Shizuoka, Aichi prefecture and its surrounding places. The topics of fieldwork are festival, performance, pilgrimage and event. We study on the "transmigration" and "transfer", features of historical road and analyses the formation to become "historical heritage". Nowadays flourishing of the concept of "heritage" is in progress. These phenomena of making the brand image reconstruct the local society and connect with politics, economy & culture. This study proposes the theorization of proliferations of the concept on "heritage" to bring out the interrelationship of history, memory and folk religion through landscape.

研究分野：宗教学

キーワード：文化的景観 歴史遺産化 民俗宗教 芸能 移動 秋葉街道 神楽 資源化

1. 研究開始当初の背景

本研究は、歴史的に生成されてきた「景観」が、観光や地域振興を目的に再解釈される動きを「歴史遺産化」と概念化し、「民俗宗教」の変容と関連付けて考察した。主たる調査地を、中部日本の三河・信州・遠江の「三信遠」を貫く秋葉街道と、その周辺地域に設定したが、他の地域の事例との比較を積極的に行って、民俗宗教を現代の社会変動に関連付けて理論的に考察する試みを行った。

秋葉街道は、「歴史の道」に認定されているが、元来は秋葉山（静岡県）を目的地とする信仰の道で、天竜川に沿って北は諏訪から南は磐田に至る。東と西に並行して連なる山並みは修験や行者の峰入り道であった。周囲には遠山霜月祭や花祭など多くの民俗芸能が展開し、「道」を介して熊野・伊勢・諏訪の信仰が混淆し独自の宗教民俗を形成してきた。本研究は、「道」を通じて生成されてきた「景観」が、現代において「歴史遺産化」される現象を通して、「民俗宗教」の変容を多角的に考察した。

本研究は、「空間の表象に関する宗教民俗学的研究」(科学研究費補助金・基盤研究C・2006年度～2007年度、代表者：鈴木 正崇)及び「道の宗教性と文化的景観」(科学研究費補助金・基盤研究C・2008年度～2010年度、代表者：鈴木 正崇)における問題意識と成果を発展的に継承し、「遺産」研究の動向を踏まえ、歴史の中で生成された「景観」の中核に「道」を指定して動態的に考察することで、人類学の「資源化」、民俗学のフォークロリズム、宗教とツーリズムの研究、環境社会学の景観論の成果を踏まえた新たな理論化を目指すものである。

2. 研究の目的

本研究の特色は、「景観」を聖地や村落、生業や生活などと関連づける従来の研究とは異なり、「道」の景観を主軸として動態的な視野を導入することと、「民俗宗教」を「景観」の変容と併せて考察することにある。「道」は、人・モノ・情報を運ぶ。「道」は、人や物の移動・交換によって経済活動の基盤になり、情報交換を通じ文化創造の動因となる。また、歴史を遡れば、「道」は宗教者や芸能者の往来によって様々な信仰や芸能を運び、沿道の地域社会の「民俗宗教」を重層化して変容させ、神仏混淆を進めた。地域は「外部性」を帯びる「道」との関係の中で独自の信仰形態を展開させてきた。特に信仰の拠点を結ぶ「道」は、宗教性を帯び、「参詣道」「修行道」「巡礼道」などとして、周辺の地域社会との双方向的な動きの中で独特の「景観」を形成した。

しかし、近代に入ると、街道や参詣道などの多くは鉄道・道路の整備で機能を失い、衰退の一途を辿り忘れ去られた。一方で、過疎化や高齢化が進む近年、地域社会の崩壊危機を乗り越えるために、行政が古い街道沿いの

「景観」の歴史的価値を再認識して活用する動きが展開し、それに伴って「民俗宗教」の再活性化や復興も起こった。本研究は、近年の新たな動きを「歴史遺産化」という新しい概念を導入して分析し、「景観」と「民俗宗教」の変容を、観光化や資源化の動きと絡めて考察し、現代社会における宗教と地域の相互関係の再構築のあり方を探究する。

なおここで言う「景観」とは、1992年にユネスコが定義してその後の文化財政策・地域振興に大きな影響を与え続けている「文化的景観」(cultural landscape)概念を念頭に置いている。「文化的景観」とは、「人間と自然環境の重要な相互作用」(significant interactions between people and the natural environment)を指し、歴史的に展開した生活様式に基づく景観(典型的には棚田)や、複合的な文化的景観で、自然と宗教的・審美的・文化的に連関する景観(聖山など)を含んでいる。これらは精神的で無形の要素が大きい生活文化や宗教文化に関わるものも含まれ、「文化遺産」は、棚田、木造建築物、集落群、巡礼道、聖地、近代産業遺産などに拡大した。「文化的景観」は過去から現在に至る人間の活動を総体として把握する視点として重要だが、定義が包括的で、解釈の許容度が高いため、各国で様々な受容されて展開した。日本は2004年には文化財保護法を改正して、「重要文化的景観」を新たに加え、景観は文化財として評価されるようになった。本研究は行政が進める制度化の動きを通じて、国や地方が新たに権威と権力を創出し、景観に大きな影響を与えることを明らかにした。そして、本研究は日本の民俗宗教が創り出した景観に関する考察に止まらず、海外も視野に入れた問題提起を行っており、高い独創性を有すると言える。

3. 研究の方法

民俗宗教が生成する景観が歴史遺産と意味づけられる過程を多面的・有機的に捉えるため、綿密なフィールドワーク・文献研究・定期的な研究会を主な方法とした。研究の重点テーマとして「芸能」「道づくり」「町づくり」「巡礼」「歴史表象」「移動」を設定し、メンバーは自身が取り組むテーマに適した調査地をあらかじめ選定し、フィールドワークと資料・文献調査を交互に行うことにより、景観の歴史遺産化の過程を捉えることを試みた。研究会においては、全メンバーの調査データを突き合わせ、多角的に検討を加えることにより、景観の「歴史遺産化」概念を練り上げ、理論化を行った。

フィールドワークとしては、秋葉山奥の院の儀礼、秋葉街道(長野県飯田市・静岡県浜松市ほか)、遠山霜月祭、盆行事、神様王国(長野県飯田市)、大念仏(長野県阿南町)、掛け踊り(長野県天龍村坂部)、霊犬伝承(静岡県磐田市・長野県駒ヶ根市)、西浦田楽(静岡県浜松市水窪)、花祭(愛知県東栄町・豊

根村) 大鹿村の景観及び大鹿歌舞伎(長野県大鹿村) 小菅柱松(長野県飯山市) 関山柱松(長野県妙高市) 観音巡礼(長野県佐久市)などの調査を実施した。

4. 研究成果

2012-2013年度には、各研究分担者・研究協力者の問題意識と本研究の目的に沿ったフィールドワーク地の選定及びフィールドワークの実施を達成した。2012年度は初年度であったため、研究方法論に関する文献研究及びフィールドワーク地に関する文献研究にも一定の比重を置いた。

鈴木は、秋葉街道沿道の伝承調査を行うとともに、各研究分担者・研究協力者の報告を受けて研究の総括の方向性の検討を行った。中山は、信濃地域における百観音巡礼碑の調査を行い、百観音巡礼の誕生と展開を支える内発的要因について検討した。谷部は、静岡県磐田市と長野県駒ヶ根市における伝承上の超自然的存在のキャラクター化に関する調査、及び秋葉山奥の院観音堂における儀礼の調査を行った。織田は、秋葉街道北部の幾筋かの街道が「塩の道」として表象される過程と現在の活用の様相、及び「霜月祭り」の調査を行った。浅川は、巡礼路や散策コースを案内し外部から訪れる者に歴史表象を行う存在であるガイドへのインタビューを行い、歴史遺産化のミクロな様相についてのフィールドワークを行った。市田は、秋葉街道の宿場町・遠山郷に点在する寺社・石仏等を文化遺産化した「神様王国」の実態について調査を行った。宮坂は、長野県大鹿村への移住者が当該社会において果たす特異な役割についての調査、及びリニアモーターカー建設に伴う景観意識の変容に関する調査を行った。桜井は、飯田市域の民俗調査、特に遠山霜月祭の考察を行った。

2014年度には、方法論の確立と問題意識の明確化及び深化を達成した。

鈴木は、長野県長野市戸隠にて戸隠神社「柱松神事」・芸能の調査を、飯田市・天龍村にて盆行事などの調査を行うと同時に、調査地でのシンポジウムで成果を発表しアウトリーチ活動を行った。中山は、長野県佐久市における百観音巡礼碑の調査を行い、百観音巡礼の誕生時期を確定させた。谷部は、静岡県磐田市と長野県駒ヶ根市における伝承の歴史遺産化について、伝承上の魔物のキャラクター化に着目して調査を行った。また、秋葉街道の整備に携わる団体の調査と秋葉山奥の院などの儀礼の調査を行った。織田は、秋葉街道全域の景観の俯瞰的調査を行い分抗峠のパワースポット化などの課題を明確化した。また、「秋葉古道ウォーキング」の参与観察及び飯田市美術博物館ほかでの資料収集を行った。浅川は、四国遍路の「結願の道」における歴史遺産化の様々な試みの現状と秋葉街道の現地調査を行った。市田は、「道」の権威化の経緯について天竜川流域に

おける諏訪信仰を例にして調査を行った。宮坂は、長野県大鹿村への移住者の移住の経緯や現在の生活状況の調査を行い、宅幼老所の運営を担うなど移住者が高齢化・過疎化する山村活性化の様相を明らかにした。桜井は、飯田市域の民俗調査全般を行い、映像記録の作成と報告書の作成を行った。

以上3カ年の調査により、三信遠以外の地域とも比較し、内発的要因に基づいて生きられてきた「道」及び「民俗宗教」が、外的要因の影響の元に、「景観」としての意味を新たに付与され、それを内部者も部分的に受け入れ流用することで「歴史遺産化」が起きるといふ動態性に関する知見の形成を達成することができた。三信遠地域で得られた研究成果は、日本各地でのフィールドワークでの事例研究に応用され、民俗宗教・景観・遺産などを歴史的に考察し理論化を試みる方向へと深まりを見せている。「遺産」の概念や、「歴史遺産化」の動きは、日本だけでなくアジア全体に広がっている。本研究は、今後さらに重要度を高めるとみられる「遺産」概念の増殖や多様な歴史認識に関して、本格的な研究への第一歩を踏み出すことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9件)

鈴木正崇:「創世神話と王権神話 アジアの視点から」、『古事記学』第1号、2015年、pp.113-214(査読無)。

鈴木正崇:「伝承を持続させるものとは何か 比婆荒神神楽の場合」、『国立歴史民俗博物館研究報告』186巻、2014年、pp.1-29(査読有)。

鈴木正崇:「仏教寺院の近代化と地域社会 福岡県篠栗町の事例から」、『人間と社会の探究 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』77巻、2014年、pp.177-211(査読有)。

鈴木正崇:「中国福建省の祭祀芸能の古層『戯神』を中心として」、『国際常民文化研究叢書』7巻、2014年、pp.231-272(査読有)。

中山和久:「不動巡礼の創造」、『歴史研究』51巻、2014年、pp.1-14(査読有)。

中山和久:「岩尾城址碑の解釈 日本百観音巡礼の開始時期をめぐって」、『人間総合科学』24巻、2013年、pp.63-72(査読有)。

SUZUKI, Masataka: "Kagura:

Dramatic Interplay between Nature and Humanity", 『Dharma World』40号、2013年、pp.12-15(査読有)。

鈴木正崇:「民俗社会の持続と変容 福岡県篠栗町若杉の事例から」、『人間と社会の探究 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』76巻、2013年、pp.83-140(査

読有)

鈴木正崇:「巻頭言 『山岳修験』50号に寄せて」山岳修験、50巻、2012年、pp.1-2(査読無)

[学会発表](計 14件)

鈴木正崇:「講集団と門前町 成田の調査から見えてきたもの」講研究会第1回公開シンポジウム、2014年12月13日、駒澤大学(東京都世田谷区)(招待講演)。

鈴木正崇:「門前町に生きる 過去・現在・未来」成田市歴史講演会、2014年11月30日、成田市役所(千葉県成田市)(招待講演)。

鈴木正崇:「創世神話と王権神話 アジアの視点から」『古事記』の学際的・国際的研究講演会、2014年10月25日、國學院大學(東京都渋谷区)(招待講演)。

鈴木正崇:「羽黒修験」第5回 庄内セミナー「生きることを考える 庄内に学ぶ生命」2014年8月30日、国民休暇村羽黒(山形県鶴岡市)(招待講演)。

鈴木正崇:「山岳信仰から修験道へ 出羽三山と鳥海山の縁起を読み解く」企画展「未来に伝える山形の宝 精神と美」記念講演会、2014年8月23日、山形県立博物館(山形県山形市)(招待講演)。

鈴木正崇:「仏教寺院の近代化と地域社会 福岡県篠栗の事例から」東北民俗の会、2014年6月21日、東北大学(宮城県仙台市)(招待講演)。

鈴木正崇:「東アジアと南アジアのはざままで 地域研究の行方を探る」慶應義塾大学東アジア研究所10周年(地域研究センター30周年)記念講演会「アジア・アフリカ研究 現在と過去の対話」2014年2月28日、慶應義塾大学(東京都港区)(招待講演)。

中山和久:「北部九州の巡礼状況 篠栗霊場を中心して」日本山岳修験学会 第34回太宰府・宝満山学術大会、2013年10月27日、九州国立博物館(福岡県太宰府市)。

鈴木正崇:「修験道は民族宗教か? 宗教人類学の立場から」日本宗教学会 第72回学術大会、2013年9月7日、國學院大學(東京都渋谷区)。

市田雅崇:「近代神社の講的組織」日本宗教学会 第72回学術大会、2013年9月8日、國學院大學(東京都渋谷区)。

織田竜也:「2.5次元の界面」日本文化人類学会 第47回研究大会、2013年6月8日、慶應義塾大学(東京都港区)。

鈴木正崇:「中世の戸隠と修験道の展開 『顕光寺流記』を読み解く」東京大学東洋文化研究所セミナー「仏教儀礼の成立と展開に関する総合的研究」2012年11月25日、東京大学(東京都文京区)(招待講演)。

鈴木正崇:「伝承を持続させるものとは何

か」日本民俗学会第64回年会、2012年10月6日、東京学芸大学(東京都小金井市)(招待講演)。

鈴木正崇:「戸隠信仰と修験道」平成24年度国際熊野学会・東京例会、2012年8月1日、旅館松倉(長野市長野市)(招待講演)。

[図書](計 18件)

鈴木正崇:『山岳信仰 日本文化の根底を探る』中央公論新社、2015年、pp.305。

鈴木正崇:[編]『森羅万象のささやき 民俗宗教研究の諸相』風響社、2015年、pp.998(1-4,255-279,931-948)。

鈴木正崇:「神話と儀礼の海洋性 中国ミャオ族の場合」『東アジア海域文化の生成と展開 <東方地中海>としての理解』(野村伸一[編])風響社、2015年、pp.752(603-635)。

鈴木正崇:「スリランカの呪術とその解釈 シーニガマのデウォルを中心に」『「呪術」の呪縛』上巻(久保田浩・江川純一[共編])リトン、2015年、pp.470(195-231)。

鈴木正崇:「東アジアと南アジアのはざままで 地域研究の行方を探る」『アジア・アフリカ研究 現在と過去の対話』(慶應義塾大学東アジア研究所[編])慶應義塾大学出版会、2015年、pp.260(111-152)。

鈴木正崇:「シルクロードから学んだもの 私の研究小史」『神話・象徴・儀礼』(篠田知和基[編])楽瑠書院、2014年、pp.370(234-316)。

中山和久:「巡礼の力学」『森羅万象のささやき 民俗宗教研究の諸相』(鈴木正崇[編])風響社、2015年、pp.998(571-590)。

谷部真吾:「穢れの統御:尾張大國霊神社の儼追神事を事例として」『森羅万象のささやき 民俗宗教研究の諸相』(鈴木正崇[編])風響社、2015年、pp.998(505-521)。

織田竜也:「世界観に表出する野生」『森羅万象のささやき 民俗宗教研究の諸相』(鈴木正崇[編])風響社、2015年、pp.998(837-849)。

市田雅崇:「神社の儀礼にみる歴史性と政治性:能登一宮の鶴祭を事例として」『森羅万象のささやき 民俗宗教研究の諸相』(鈴木正崇[編])風響社、2015年、pp.998(439-461)。

浅川泰宏:「歩き遍路と海の風景:現代四国遍路のコスモロジー」『森羅万象のささやき 民俗宗教研究の諸相』(鈴木正崇[編])風響社、2015年 pp.998(615-631)。

宮坂清:「神々に贈られるバター:ラダックの遊牧民による乳加工と信仰」『森羅万象のささやき 民俗宗教研究の諸相』(鈴木正崇[編])風響社、2015年、pp.998(39-56)。

鈴木正崇:「日本における目連の受容

仏教と民俗のはざままで』『神話のシルクロード』(篠田知和基〔編〕) 楽瑯書院、2014年、pp.478(209-254)。

鈴木正崇: 「中世の戸隠と修験道の展開『顯光寺流記』を読み解く』『異界と常世』(篠田知和基〔編〕) 楽瑯書院、2013年、pp.580(239-330)。

鈴木正崇: 「南インド・ケーララ州の祭祀演劇『クーリヤータム』『暮らしの伝承知を探る』(野本寛一・赤坂憲雄〔編〕) 玉川大学出版部、2013年、pp.220(204-217)。

鈴木正崇: 「神楽の中の巫者』『木曾御嶽信仰とアジアの悪霊文化』(菅原壽清〔編〕) 岩田書院、2012年、pp.494(351-376)。

鈴木正崇: 「神楽 自然と人間の交流のドラマ』『山と森の精霊 高千穂・椎葉・米良の神楽』(高見乾司・中沢新一〔共著〕) LIXIL 出版、2012年、pp.80(72-75)。

浅川泰宏: 「道をプリコラージュする 四国遍路の巡礼路再生運動』『宗教とツーリズム 聖なるものの変容と持続』(山中弘〔編〕) 世界思想社、2012年、pp.279(149-169)。

〔その他〕

ホームページ等

鈴木正崇研究室<<http://keioanthropology.fc2web.com/>>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 正崇 (SUZUKI, Masataka)

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号: 10126279

(2) 研究分担者

中山 和久 (NAKAYAMA, Kazuhisa)

人間総合科学大学・人間科学部・准教授

研究者番号: 80555095

織田 竜也 (ODA, Tatsuya)

長野県短期大学・多文化コミュニケーション学科・准教授

研究者番号: 00431841

浅川 泰宏 (ASAKAWA, Yasuhiro)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授

研究者番号: 90513200

宮坂 清 (MIYASAKA, Kiyoshi)

名古屋学院大学・法学部・講師

研究者番号: 50734000

(4) 研究協力者

桜井 弘人 (SAKURAI, Hiroto)

飯田市美術博物館・学芸員

谷部 真吾 (YABE, Shingo)

慶應義塾大学・文学部・非常勤講師

研究者番号: 80513746

市田 雅崇 (ICHIDA, Masataka)

国土館大学・文学部・非常勤講師

藤野 陽平 (FUJINO, Yohei)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究機関研究員

研究者番号: 50513264

濱 雄亮 (HAMA, Yusuke)

慶應義塾大学・文学部・非常勤講師

研究者番号: 60739126